

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ  
シリーズ/NO 154号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期22年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4400日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は284名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## 松伏町長選挙の応援に若い地方議員が、朝の駅頭に

今朝の駅立ちは、せんげん台駅東口だったので通常通り午前5時過ぎから市政レポートの配布を開始。

午前7時前に、背広姿の3人の青年の地方議員が幟旗をもって街宣活動の準備をしながら、私に話しかけてこられた。5月18日投開票の松伏町長選挙に立候補している高野まさひろ候補の応援隊だ。両サイドの歩道上でチラシを配布したいのでいいでしょうか、と。当然、はい遠慮なく選挙期間中ですのでしっかりやって下さいと。3議員は和光市議が二人、先般当選したばかりの25歳の富士見市議。

候補者の高野元松伏町議と仲間であり日常的に連携しており、応援している、と話してい

たが、その高野元町議も32歳と若い。

(その後投票の結果、3期目の現職町長を破って高野氏が当選した。この間埼玉県内の首長選挙では、新人が現職を破るケースが目立っており勝敗には共通点がある。秩父市長選挙“現職2期目”や和光市長選挙“現職2期目”だ。

まず、一騎打ちの構造で、現職は真面目で斎藤兵庫県知事のような振る舞いは一切ないが、高齢男性だ。

一方新人は当該自治体の議員であり、若い。

ただ、和光市長は女性“50歳”であり、二期目の当選を果たしたが、新人の44歳の男性候補に競り勝ってはいるが、この候補は全くの政治経験がない正に新人に肉薄されている。

現職市長はいずれもそれほどの失策はなく、むしろ坦々と市政に取り組んではいるものの、際立っての特色がないと言えない。

しかし物価高、実質賃金の低下、将来不安等の鬱陶しい空気が市民を覆っており、何か漠然とした希望で変えてくれそうなリーダーに期待したいが、現職よりも新人がよりましだろうという感覚ではないだろうか。

これは、本年10月27日投開票の越谷市長選挙にも当てはまるもので、8年前の市長選挙で敗退した元越谷市議が今回も立候補を表明している。これに対して現市長福田晃氏(一期目)も6月市議会で市長選挙への意欲を一般質問の答弁で披歴した。同じ様な結果にならないように、私は福田市長を全力で応援して行く)  
(5月13日・水曜日)

## 自分の一般質問の原稿を事前に他党派の議員に配布する!?

「最短の信頼を勝ち取る!新人議員のための4ステップ」—最初の1年で差がつく!できる議員の戦い方を学ぼう—をテーマとしたセミナーに、5月20日、21日参加して来た。

主催は地方議員研究所で、会場は福岡市の貸会議室。私はすでに7期目でありこのテーマの新人議員に当然該当はしない。しかし、常に初心をわすれてはならない、との思いと本年3月に設立した一般社団法人ソブリンムーブメントの事業として地方議員を対象としたセミナーや選挙対策等の企画を考えており、その参考にもなるとの目的で参加した。

講座では、基礎の基礎である「議員の仕事とは何ですか?」から解説が始まった。(裏へ)

越谷市議会も含めて、議会や議員の活動目的は「市民福祉の増進」(地方自治法第1条の2)と規定されているが、この「増進」が「向上」と表現している場合が多々見受けられる。

そんなに違いがある様には思えないのだが、増進とはふくらむ、広がるとの意味。向上とはすすむとの意味。2001年に制定された地方分権一括法の中の法文にこの増進の表現があり、これまでの向上から変更された経緯がある。

この法律の精神は、全国の自治体でそれぞれの状況に応じて自治体自身の裁量と責任で政策を実行出来ることであり、市民福祉という自治体の究極の目標への姿勢を表す増進となった。通算4講座で都合10時間の講座の中で特に印象に残ったのは、市政全般の様々な課題を取り上げて市長や教育長に質問する一般質問に関して。当然議員は事前に質問原稿を準備するが、その原稿を本会場での本番前に所属する他議員に回覧する事に留まらず、他会派の議員にも回覧し、意見を聴取する方法を検討すべき、との話。

この一般質問のテーマは地域に噴出する問題を取り上げるもので、視点や組み立ては議員個々での相違はあるもののテーマが重なることはしばしばある。従って原稿を回覧すれば参考になることはあるし、同じテーマを他議員と連携して質問を波状的に展開し、市長に実行を迫るのは、議員提出議案での実行とは違う方法での活動手法だろう。ただ、やはり日常の他会派議員と信頼関係の構築が前提になるだろう、との感想を持った。

(5月20日、21日・火曜日、水曜日)

## 4年ぶりのグラウンドゴルフ大会を開催・54回目の大会に80人程の選手が



今朝の駅立ちは、北越谷駅西口だったので通常通り午前7時前から大型スピーカーを使用しての街頭市政報告に取り組んだ。ただ、午前8時30分から第54回がんばろう、越谷復活グラウンドゴルフ大会の開会式参加のため、通常より少し早い午前8時15分で切り上げて、会場の北越谷第5公園に向か

った。

主催はチーム白川だが、コロナ禍の3年間大会開催を選手への感染予防のため中断していた。更にコロナ禍明けでもすぐには再開出来ず4年間の空白となっていたが、会場には80人程の市民が参加していた。当日は参加賞に全員がパック入りのお米が。コメ高騰が続く中、助かりますとの多くの声を聞かれた。参加会費一人500円を原資として運営をしており、当然だが市からの補助金や私からのカンパは一円もなく、全て会費とこれまでの会費の積立金で自主運営を続けて来た。(5月28日・水曜日)

## 深夜午前2時過ぎに終了、6月議会の初日・何故こんな異常事態に

午前10時、本会議への招集が32名全議員に通知され、6月越谷定例市議会がスタート予定だったのだが、何と開会前に島田議長が辞職願いを提出した。これは異例中の異例だ。まず議長が開会を宣言して、直ぐに辞職願いを提出するのが、これまでの慣例であり手続きだったのだが。(勿論規則上は何時でも議長は辞職願いは出せるのだが) 実は、異例の事態は開会前の2週間ほど前に起きていた。これまで第一会派だった自民党(当時8人)から3人が分裂して更に保守会派(4人)と合流してネクスト越谷(7人)を結成したため第一会派が変わり、自民党は5人会派となり第三会派に転落した。そのためこれまでの議会人事等を自民党(8人)、公明党(6人)、立憲民主党(3人)、維新の会(1人)で仕切ってきた体制が大きく崩壊。体制変化で最も揉めに揉めたのは本会場の議席を巡り最大会派ネクスト越谷と自民党、公明党との協議が初日を迎えても合意が出来ない混乱様態に。この調整の責任は全て議長にあるのだが、その議長が決着をつけず早々と辞職した。(責任回避?との声が) 従って開会出来ず議席の確定は、初日の議会運営委員会の協議事項となり断続的に協議が繰り返された。結果事実上の採決で自公案に。(ネクスト越谷は、話合いが不調でありネクスト越谷案と自公案のくじ引きを提案したが、自公がこれを拒否。そこで全議員が意見を表明した。自公案への賛成は、自民党と公明党と共産党の議員、ネクスト越谷案に賛成はネクスト越谷と市民ネットとこしがや無所属の会、中間は立憲民主党と維新の会とだった。) その後の経緯は次回の号で。

(6月2日・月曜日)